

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	72100	道路橋りょう管理事務費	担当課	基盤整備部 維持課	内線	2322
予算	会計	1 一般会計	政策			
	款	7 土木費	分野			
	項	2 道路橋りょう費	基本施策			
	目	1 道路橋りょう総務費	施策			
実施計画事業						
市長の約束						

1 事業の目的・概要(Plan)

誰を(対象)	市民や観光客等の道路網利用者	受益者数	93,312 人
目的	道路・橋りょう施設など良好な状態で利用できるよう維持管理を行なう		
概要	道路・橋りょうを安心安全に利用できるよう、施設の光熱水費の支払いやトンネル・融雪装置などの保守点検業務、除雪機の修繕等を行なう		
前回の評価からの改善・改革のポイント	道路橋りょう等の維持管理を円滑に実施する		

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	①	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		算出根拠等		達成率(%)				
成果面	②	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		算出根拠等		達成率(%)				-
成果指標	①	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		算出根拠等		達成率(%)				-
成果指標	②	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		算出根拠等		達成率(%)				-
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円) (A)				53,452	52,500	55,467	0
	受益者負担(使用料・負担金等)				47,400	48,492	45,541	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				113	96	96	
	一般財源				5,939	3,912	9,830	
コスト指標	指標名				H21	H22	H23見込	H24計画
	受益者1件当たり(円) (A/B)				567	560	595	
	受益者 市民(4月1日現在) (B)				94,235	93,822	93,212	93,200
	算出根拠等							

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準			評価	評価内容の説明など	
	A(2)	B(1)	C(0)			
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく		評価対象外	事務的な経費であり総合計画・市長公約等からの評価はできない	
	B(1)	一部結びつく				
	C(0)	結びつかない				
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している		B	安全で快適に道路や橋りょうなどを利用するための維持管理は必要不可欠であり、施設・機器の稼働や修繕は継続して行なわなければならない	
	B(1)	ある程度のニーズがある				
	C(0)	少ない、減少している				
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ		A	市内の道路や橋りょうなどの維持管理に係るもので、道路全般、トンネルや道路照明、除雪に関するものや融雪装置等、広範囲での事業である	
	B(1)	概ね市民全体におよぶ				
	C(0)	わずかな受益者に限定される				
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)		評価対象外	事務的な経費であり評価はできない	
	B(1)	概ね達成している (75%以上)				
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)				
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である		B	道路等を安心安全に利用できるよう、施設の光熱水費や保守点検業務、除雪機の修繕等を行なう	
	B(1)	概ね有効である				
	C(0)	見直しが必要である				
⑥ 事業実施における課題の解消・前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている		B	通常の維持管理にすることが多いため、継続して実施している維持管理費を削減するために検討を行なう	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる				
	C(0)	対応していない				
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている		B	トンネル照明の節電を実施する等、経費の節減に努めている	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる				
	C(0)	対応していない				
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である		B	市内の道路や橋りょうなどに関する維持管理を行なっており、市民が安全に通行することを考慮すれば概ね適正である	
	B(1)	概ね適正である				
	C(0)	改善が必要である				
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である		A	市内の道路や橋りょうなどに関する広い範囲での維持管理を行なっており、概ね適正である	
	B(2)	概ね適正である				
	C(0)	改善が必要である				
合計				11.0 / 16.0	100点換算	69 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・道路や橋りょうなどに関する維持管理を適正に行ない、市民が安全に利用できるよう継続して実施する				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・融雪装置のランニングコストが経費の大半を占めていることから、天候により左右されるものの、最適な動作環境の設定によりコスト削減に努めていく必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	58,097	170,640	112,543	56,613	56,613
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金	96	96	0	66	66
起債					
その他	45,543	45,477	△66	45,773	45,626
一般財源	12,458	125,067	112,609	10,774	10,921

予算要求の概要	・浸水対策用の排水ポンプ車導入 ・融雪装置、JRアンダーパス自家発電に係る燃料費 ・融雪装置に係る電気・水道使用料 ・除雪機に関する消耗品、修繕料 ・道路橋りょう等施設の保守点検料
要求額増減理由	・浸水対策用の排水ポンプ車導入による増 ・除雪機に関する消耗品、修繕料の増
事業実施の課題	・特に除雪機の老朽化に伴い、それに係る消耗品や修繕費が増加傾向にある

財務部査定の考え方	・事務費は積算内容を精査 ・浸水対策については、宮川排水ゲートの設置や、水路切りまわしの対策を行なっており、さらに洪水システムによる河川状況把握と宮川ゲートが閉じる水位予測が可能なこと、消防車両排水計画による初動体制と災害応援協定に基づく建設事業者所有の排水ポンプ投入が可能なことから防災体制は整っていると考える よって排水ポンプ車購入費の予算計上を見送る
市長査定の考え方	・財務部査定のとおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	急傾斜地崩壊防止事業 (負担分除く)		担当課	基盤整備部 維持課		内線 2326
	枝番					
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	3 「すみよさ」のあるまちをめざして	
	款	7 土木費		分野	8 防災	
	項	2 道路橋りょう費		基本施策	1 災害に強いまちをつくる	
	目	1 道路橋りょう総務費		施策	3 豪雨災害の防止	
実施計画事業	急傾斜地崩壊対策5か年整備計画					
市長の約束	6	市民の生活と生命・財産を守ります。土石流等の自然災害に備える防災施設の施工を進め実践的な防災訓練を実施します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	土砂災害特別警戒区域で被害が甚大になると想定される箇所に居住する市民、通過車両	受益者数	24 人
目的	どういった状態にしたいのか(意図)	急傾斜面の崩壊を防ぐ施設整備を行い、崩土による被災を防ぎ、市民の生命・財産を守る。		
概要	事業の実施手法(手段)	重力式擁壁・モタレ擁壁・法面工等を急斜面で施工することにより、崩土による被災の防止を図る。		
前回の評価からの改善・改革のポイント	計画に基づき早期に対策工事が実施できるよう、地域住民、関係機関との調整により、事業地区申請の手続きを早期に完了し事業の進捗を図る。			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 急傾斜地崩壊対策施設整備延長			m	目標値	69	0	43
			実績値	69	0	43	27	
算出根拠等			達成率(%)	100		100	-	
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値				
				実績値				
	算出根拠等			達成率(%)				-
コスト指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値				
				実績値				
	算出根拠等			達成率(%)				-
財源内訳	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)(A)				28,463	10,710	24,000	42,000
	受益者負担(使用料・負担金等)						0	0
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				16,000		16,000	28,000
コスト指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 受益者1件当たり(円)(A/B)				1,185,958	446,250	1,000,000	1,750,000
	② 受益者		(B)		24	24	24	24
	算出根拠等							

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・第七次総合計画(後期)、市長公約にも位置付けられ、自然災害から生命・財産を守る上でも、整備の重要性は高い。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	A	・急傾斜地崩壊危険箇所が市内に約260箇所のうち着手出来ている箇所は30%弱の状況であることから、市民からの施設整備のニーズは多い。
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	C	・急傾斜地崩壊危険箇所の被害想定内に10戸以上ある地区は県施工で対応している。10戸以下の地区で崩壊の危険度が高い地域について市施工で実施しているため受益者は少数に限定される。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	・施設整備を実施することにより、その地区に居住する住民の生命と身体、財産を守り、被害を最小限に留める。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	・急傾斜地崩壊危険区域内にある人家を守るため、危険度の精査及び必要十分な工事を行う。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消・前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	・市が事業主体の場合、県の補助金(2/3)を受けて事業実施している。県の財政においても厳しい状況のため、計画に沿った事業費確保が難しい状況であるため、今後も継続的に働きかけていく必要がある。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	・事業認可前に危険度を精査し、崩壊防止施設が過剰にならない設計・手法に取り組んでいる。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	・受益者の人数は少ないが守る対象人家、財産、生命等検討すると概ね適正である。
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	A	・事業に対し担当職員は一人であり、他にも多数の事業を持ち実施している。また、事業に対し構造物の強度や全体事業費も抑えて計画している。
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		15.0 / 20.0	100点換算	75 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	・5か年の実施計画に基づき、県の補助金確保と崩壊防止施設工事を進める。				

総合評価(二次評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	0	24,000	24,000	24,000	24,000
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金	0	16,000	16,000	16,000	16,000
起債					
その他					
一般財源	0	8,000	8,000	8,000	8,000

予算要求の概要	急傾斜地崩壊防止事業(山王洞)の実施(3カ年事業の2年目) 重力式擁壁工、法面抑止・抑制工
要求額増減理由	平成23年6月の補正予算により事業着手したため
事業実施の課題	県からの継続した予算確保

財務部査定の考え方	・要求どおり
市長査定の考え方	・財務部査定のとおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	72110	道路台帳管理費		担当課	基盤整備部 維持課		内線	2322
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	3	「すみよさ」のあるまちづくりをめざして	
	款	7	土木費		分野	3	道路・交通	
	項	2	道路橋りょう費		基本施策	1	便利で快適な道路環境を整備する	
	目	1	道路橋りょう総務費		施策	2	生活に身近な道路の整備	
実施計画事業	道路台帳管理事業							
市長の約束								

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民をはじめとする道路台帳利用者	受益者数	93,312 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	道路法に基づく道路台帳の整備を実施することにより、適切な市道管理、事業者等への情報提供を行なう		
概要	事業の実施手法(手段)	道路整備が完了したり、道路の仕様が変更された場合に測量調査を実施し道路台帳に反映させるよう、業務委託を行なう		
前回の評価からの改善・改革のポイント	道路台帳の整備を確実に実施する			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	①	道路台帳更新・変更路線数		本	目標値		180	200
算出根拠等			実績値	160	169	200	-	
②				達成率(%)	#DIV/0!	94	100	-
	算出根拠等							
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	①				目標値			
算出根拠等			実績値				-	
②				達成率(%)				-
	算出根拠等							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)(A)				15,815	13,367	16,000	15,000
	受益者負担(使用料・負担金等)				50	46		
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
	一般財源				15,765	13,321	16,000	15,000
コスト指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	①	受益者1件当たり(円)(A/B)			168	142	172	161
		受益者	市民(4月1日現在)(B)		94,235	93,822	93,212	93,200
	算出根拠等							

3 分析・評価(Check)

	評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
		A	B		
必要性	① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2) 結びつく	B(1) 一部結びつく	B	市道の管理を行なう基本となるもので、道路の維持管理の根幹となるものであり、道路法にも定められていることから重要性は高い
		C(0) 結びつかない			
		A(2) 非常に多い、急増している	B(1) ある程度のニーズがある		
C(0) 少ない、減少している					
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2) 市民全体におよぶ	B(1) 概ね市民全体におよぶ	B	道路を維持管理するためには必要であり、道路法にも設置が定められ、市民のみならず事業者等にも利用される	
	C(0) わずかな受益者に限定される				
	④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2) 十分に達成している (100%以上)			B(1) 概ね達成している (75%以上)
C(0) あまり順調でない (75%未満)					
成果面		⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2) 有効である	B(1) 概ね有効である	B
	C(0) 見直しが必要である				
	⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応		A(2) 課題はない・解消されている	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる	
C(0) 対応していない					
コスト面		⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2) 課題はない・解消されている	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる	B
	C(0) 対応していない				
	⑧ 受益者1件当たりのコスト		A(2) 適正である	B(1) 概ね適正である	
C(0) 改善が必要である					
成果対コスト		⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4) 適正である	B(2) 概ね適正である	B
	C(0) 改善が必要である				
	合計		10.0 / 20.0	100点換算	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・道路を維持管理するためには必要であり、道路法にも設置が定められていることから継続して実施する				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	(担当課評価に同じ)				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部 査定額	市長 査定額
歳出(千円)	16,000	20,127	4,127	16,000	16,000
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他	40	40	0	40	40
一般財源	15,960	20,087	4,127	15,960	15,960

予算要求の概要	・本庁及び各支所における道路台帳補正業務一式(現地調査、図面修正、調書更新、台帳図面・道路網図・路線調書製本等)
要求額増減理由	・対象路線の増
事業実施の課題	・現状、道路台帳の管理は各支所ごとに異なるシステム(または紙ベース)で行っているが、将来的には統一する必要がある

財務部査定の考え方	・積算内容を精査し前年並み事業費とする
市長査定の考え方	・財務部査定のとおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	72200	道路橋りょう維持修繕		担当課	基盤整備部 維持課		内線	2326
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして	
	款	7	土木費		分野	3	道路・交通	
	項	2	道路橋りょう費		基本施策	1	便利で快適な道路環境を整備する	
	目	2	道路橋りょう維持費		施策	2	身近な道路の整備	
実施計画事業								
市長の約束								
		4	市民の生活と生命・財産を守ります。支所地域と市街地を結ぶ主要道路や都市計画道路の整備を進めます。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民及び市道通過車両	受益者数	—	人
	どういう状態にしたいのか(意図)	道路施設維持修繕を実施することにより、道路の走行性及び安全性の向上を図り、快適で安心な道路網を確立する。			
概要	事業の実施手法(手段)	側溝、舗装、橋梁等の道路施設の経常的な維持修繕を実施する。			
前回の評価からの改善・改革のポイント	中長期的な視点でのコスト縮減や効率的な維持管理方法、道路修繕整備基準の確立。				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	算出根拠等		m	目標値			
			実績値				
算出根拠等			達成率(%)				-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
			目標値				
算出根拠等			実績値				
			達成率(%)				-
②	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
			目標値				
算出根拠等			実績値				-
			達成率(%)				-
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)(A)			471,444	745,490	835,500	310,000
	受益者負担(使用料・負担金等)				0	0	0
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				250,149	200,000	0
	一般財源			471,444	495,341	635,500	310,000
コスト指標	指標名		H21	H22	H23見込	H24計画	
	① 受益者1件当たり(円)(A/B)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
	② 受益者	(B)					
	算出根拠等						

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準			評価	評価内容の説明など	
	A(2)	B(1)	C(0)			
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく		A	・市道は特に生活道路であり、日々の市民生活と自然災害から生命・財産を守ることや流通の上でも、整備の重要性は高い。	
	B(1)	一部結びつく				
	C(0)	結びつかない				
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している		A	・生活道路であるため、路面や側溝の安全に関する町内からの利便性向上の要望は特に増加している。	
	B(1)	ある程度のニーズがある				
	C(0)	少ない、減少している				
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ		A	・住宅地周辺道路は市道が大半をしめているため、維持管理を実施することで事業効果が市民全体に及ぶ。	
	B(1)	概ね市民全体におよぶ				
	C(0)	わずかな受益者に限定される				
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)		B	・管理する市道延長は約1,800kmあり、市民要望による維持修繕を全て実施することは困難な状況であるが、経常的に実施することで、生活環境が保たれる。	
	B(1)	概ね達成している (75%以上)				
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)				
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である		A	・危険性が大きいと判断されるものは早期対応し、事故軽減に努めている。	
	B(1)	概ね有効である				
	C(0)	見直しが必要である				
⑥ 事業実施における課題の解消・前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている		B	・工事施工年度や、施工規模、の整理を行い、維持修繕の次の時期を判断できるよう資料づくりを進めている	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる				
	C(0)	対応していない				
⑦ コスト縮減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている		B	・中長期的な視点でのコスト縮減や効率的な維持管理方法を常に検討。	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる				
	C(0)	対応していない				
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である		A	・生活道路である市道を修繕することにより、多くの市民の生活環境や道路の利便性が向上することから、コストは適正である。	
	B(1)	概ね適正である				
	C(0)	改善が必要である				
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である		A	・事業を担当する職員は他に多数の事業をもちながら実施していることから、事業に係る人件費はわずかである。整備には二次製品を使用しコストを下げているため適正である。	
	B(2)	概ね適正である				
	C(0)	改善が必要である				
合計				17.0 / 20.0	100点換算	85 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・引き続き、道路施設の修繕を行うことで、道路走行の安全性を確保し、快適で安心な道路網を維持する。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・景気対策として前倒し実施しており、引き続き景気の動向を見ながら事業規模の調整を図る必要がある。 ・多数寄せられる生活道路に関する町内要望については、データベース化を図り緊急度、事業費、実施時期を把握する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	439,500	451,600	12,100	473,000	473,000
国庫支出金	165,000	138,650	△26,350	176,000	176,000
県支出金					
起債					
その他	6,000	11,000	5,000	6,000	6,000
一般財源	268,500	301,950	33,450	291,000	291,000

予算要求の概要	道路施設の経常的な維持修繕(道路修繕・側溝修繕・舗装修繕・橋梁修繕等)を実施する
要求額増減理由	景気対策による増
事業実施の課題	生活道路のため、路面や側溝の安全に関する町内要望等が年々増加している。中長期的な視点でのコスト縮減や効率的な維持管理方法、道路修繕整備基準の確立。

財務部査定の考え方	・景気対策として、H23年9月補正および12月補正にて前倒し実施しているところだが、前年度にさらに上乗せした予算額を確保
市長査定の考え方	・財務部査定のとおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	72205	道路清掃業務委託費	担当課	基盤整備部 維持課	内線	2322
予算	会計	1 一般会計	政策			
	款	7 土木費	分野			
	項	2 道路橋りょう費	基本施策			
	目	2 道路橋りょう維持費	施策			
実施計画事業						
市長の約束						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	受益者数	93,312 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	道路の環境美化の保持や安全確保及び観光地としての景観保全を行なう		
概要	事業の実施手法(手段)	業務委託により、道路上の粉塵・ごみ等の除去、道路側溝の清掃、通行を円滑化するための草刈り等を行なう		
前回の評価からの改善・改革のポイント	道路橋りょう等の維持管理を円滑にするため継続して実施する			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
① 市道路側清掃延長		kmj	目標値		40	40	40
			実績値	45	40	40	-
算出根拠等			達成率(%)	#DIV/0!	100	100	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
② 市道路側清掃ごみ処理料		t	目標値		40	40	40
			実績値	42	40	40	-
算出根拠等			達成率(%)	#DIV/0!	100	100	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
①			目標値				-
			実績値				-
算出根拠等			達成率(%)				-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
②			目標値				-
			実績値				-
算出根拠等			達成率(%)				-
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)(A)			2,389	2,142	3,000	0
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			2,389	2,142	3,000	
コスト指標	指標名			H21	H22	H23見込	H24計画
	①	受益者1件当たり(円)(A/B)		25	23	32	
		受益者 市民(4月1日現在)(B)		94,235	93,822	93,212	93,200
	②						
算出根拠等							

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準			評価	評価内容の説明など	
	A(2)	B(1)	C(0)			
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2) 結びつく	B(1) 一部結びつく	C(0) 結びつかない	評価対象外	事業計画はなく維持管理的なものであることから評価はできない	
	A(2) 非常に多い、急増している	B(1) ある程度のニーズがある	C(0) 少ない、減少している			
	A(2) 市民全体におよぶ	B(1) 概ね市民全体におよぶ	C(0) わずかな受益者に限定される			
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2) 非常に多い、急増している	B(1) ある程度のニーズがある	C(0) 少ない、減少している	B	道路の安全確保や維持管理面のみならず、景観保全の観点からも市民からのニーズは高い	
	A(2) 市民全体におよぶ	B(1) 概ね市民全体におよぶ	C(0) わずかな受益者に限定される			
	A(2) 十分に達成している (100%以上)	B(1) 概ね達成している (75%以上)	C(0) あまり順調でない (75%未満)			
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2) 市民全体におよぶ	B(1) 概ね市民全体におよぶ	C(0) わずかな受益者に限定される	A	道路の安全確保や維持管理面のみならず、景観保全の観点から、市民への効果ばかりではなく、高山市のイメージアップにもつながる	
	A(2) 十分に達成している (100%以上)	B(1) 概ね達成している (75%以上)	C(0) あまり順調でない (75%未満)			
	A(2) 有効である	B(1) 概ね有効である	C(0) 見直しが必要である			
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2) 十分に達成している (100%以上)	B(1) 概ね達成している (75%以上)	C(0) あまり順調でない (75%未満)	A	必要に応じ道路や道路側溝の清掃、草刈り、ごみ収集等を行なうことで道路の維持管理や景観保全をはかっており概ね目的を達成している	
	A(2) 有効である	B(1) 概ね有効である	C(0) 見直しが必要である			
	A(2) 課題はない・解消されている	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる	C(0) 対応していない			
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2) 有効である	B(1) 概ね有効である	C(0) 見直しが必要である	B	業務委託により道路上の粉塵やごみ等の除去、道路側溝の清掃や草刈り等を行なう道路水路の維持管理や景観を保全するよう実施している	
	A(2) 課題はない・解消されている	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる	C(0) 対応していない			
	A(2) 課題はない・解消されている	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる	C(0) 対応していない			
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2) 課題はない・解消されている	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる	C(0) 対応していない	B	より有効な方法や実施時期などについて検討をおこなう	
	A(2) 課題はない・解消されている	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる	C(0) 対応していない			
	A(2) 適正である	B(1) 概ね適正である	C(0) 改善が必要である			
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2) 課題はない・解消されている	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる	C(0) 対応していない	B	市道の草刈り業務については、一部緊急雇用対策事業により対応を行なう	
	A(2) 適正である	B(1) 概ね適正である	C(0) 改善が必要である			
	A(2) 適正である	B(1) 概ね適正である	C(0) 改善が必要である			
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2) 適正である	B(1) 概ね適正である	C(0) 改善が必要である	B	市民に対し道路の安全性、水路の機能、景観の保全などの効果があり、コストは概ね適正である	
	A(2) 適正である	B(1) 概ね適正である	C(0) 改善が必要である			
	A(4) 適正である	B(2) 概ね適正である	C(0) 改善が必要である			
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4) 適正である	B(2) 概ね適正である	C(0) 改善が必要である	B	道路の安全性、水路の機能、景観の保全など多方面の効果があり、それらを考慮すればコストは概ね適正である	
	A(4) 適正である	B(2) 概ね適正である	C(0) 改善が必要である			
	A(4) 適正である	B(2) 概ね適正である	C(0) 改善が必要である			
合計				11.0 / 18.0	100点換算	61 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・道路の安全確保や維持管理、景観保全のために継続して実施する				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	(担当課評価に同じ)				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	3,000	3,000	0	3,000	3,000
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
一般財源	3,000	3,000	0	3,000	3,000

予算要求の概要	・市道法面の草刈り ・道路粉塵の清掃
要求額増減理由	
事業実施の課題	

財務部査定の考え方	・要求どおり
市長査定の考え方	・財務部査定のとおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	72400	交通安全施設整備事業	担当課	基盤整備部 維持課	内線	2322
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	3 「すみよさ」のあるまちづくりをめざして	
	款	7 土木費		分野	9 安全	
	項	2 道路橋りょう費		基本施策	1 日常生活における安全を確保する	
	目	4 交通安全対策費		施策	3 交通安全対策の充実	
実施計画事業	交通安全施設整備事業					
市長の約束	6	市民の生活と生命・財産を守ります 支所地域と市街地を結ぶ主要道路や都市計画道路の整備を進めます。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	道路交通網の利用者	受益者数	93,312 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	交通事故の危険性がある箇所に交通安全施設を設置し事故防止を図る		
概要	事業の実施手法(手段)	道路反射鏡・ガードレール・道路照明・道路区画線等の新設や修繕を行なう		
前回の評価からの改善・改革のポイント	危険箇所を精査し緊急性・危険性の高いものより整備を行なう			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	① 防護柵設置	m	指標名				単位					
			目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
成果面	算出根拠等		目標値	-	400	945	1,164	実績値	1,164	753	945	-
			達成率(%)	#VALUE!	188	100	-					
成果指標	② 道路反射鏡設置	基	指標名				単位					
			目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
成果指標	算出根拠等		目標値	-	30	14	31	実績値	28	35	14	-
			達成率(%)	#VALUE!	117	100	-					
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額						
	歳出(千円)(A)		100,375	50,373	32,000	30,000						
コスト面	受益者負担(使用料・負担金等)		19	19								
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)		64,836	3,459	29	5,500						
コスト面	一般財源		35,520	46,895	31,971	24,500						
	指標名		H21	H22	H23見込	H24計画						
コスト面	①	受益者1件当たり(円)(A/B)	1,065	537	343	322						
		受益者 市民(4月1日現在)(B)	94,235	93,822	93,212	93,200						
コスト面	②	算出根拠等										

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	市内全域の交通安全施設の整備を行っており「住みやすい街を創ります」の公約に則している
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	A	交通安全の施設整備に関する要望は非常に多い
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	A	市内全域を対象に交通安全施設の整備を行なっている
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	必要な安全対策は実施しているものの、要望箇所が多く、全ての箇所は対応できていない
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	交通安全施設を整備することで、整備前よりも交通事故防止が図られる
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消・前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	危険箇所毎に状況に合った施設整備を検討・実施している
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト縮減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	危険箇所毎に状況に合った施設整備をコスト面から検討・実施している
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	市内全域対象としており、市民全員が対象であることを考えると概ね適正である
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	事業費と人件費との比率からすれば概ね適正である
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		15.0 / 20.0	100点換算 → 75 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・交通安全に関しては警察等の意見を参考に、低コストで効果の上がる整備を実施する ・事業費ではインシヤルコストのみならず、ランニングコストや環境にも配慮した新たな資材・工法の検討を行なう				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・平成22年度事業評価において、町内要望により設置した施設などについては、維持修繕に対し協力を求めるなど市民との協働による施設管理を行っていく必要があるとの指摘をしており、こうした取組みを引き続き行う必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部 査定額	市長 査定額
歳出(千円)	32,000	49,452	17,452	32,000	32,000
財源内訳					
国庫支出金			0		
県支出金					
起債					
その他	29	25	△4	25	25
一般財源	31,971	49,427	17,456	31,975	31,975

予算要求の概要	・事故発生箇所、危険箇所に交通安全施設を設置する事により、安心安全な街づくりを行う(道路反射鏡、ガードレール、区画線等の新設や修繕)
要求額増減理由	・町内要望に対応するため
事業実施の課題	・コスト縮減を図るため資材の再利用や新しい製品の採用等の検討を行う

財務部査定の考え方	・積算内容を精査のうえ実施計画どおりの事業規模とする
市長査定の考え方	・財務部査定のとおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	72403	道路施設バリアフリー整備事業	担当課	基盤整備部 維持課	内線	2322
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	3 「すみよさ」のあるまちづくりをめざして	
	款	7 土木費		分野	3 道路・交通	
	項	2 道路橋りょう費		基本施策	1 便利で快適な道路環境を整備する	
	目	4 交通安全対策費		施策	2 生活に身近な道路の整備	
実施計画事業	道路施設バリアフリー整備事業					
市長の約束	6	市民の生活と生命・財産を守ります 支所地域と市街地を結ぶ主要道路や都市計画道路の整備を進めます。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	高齢者や児童・生徒、障がい者をはじめ、全ての歩行者並びに道路利用者	受益者数	93,312 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	歩行者等が安全で安心して快適に暮らせる環境づくりに向け、ユニバーサルデザインの観点から、道路施設について、バリアフリー化整備と歩行者移動支援施設整備を実施する		
概要	事業の実施手法(手段)	・道路施設バリアフリー化整備(既設側溝改修・蓋設置並びに路肩部のカラー化舗装、歩道段差解消、グレーチング細目化) ・歩行者移動支援施設整備(融雪ブロック+知らせるあかり、知らせる明かりソーラー)		
前回の評価からの改善・改革のポイント	事業計画の確実な実施及び支所地域を含む市全域での計画策定を行なっている			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	①	指標名	単位	目標・実績				
				H21	H22	H23見込	H24計画	
成果面	算出根拠等	道路施設バリアフリー化整備延長	m	目標値	-	940	560	584
				実績値	653	935	560	-
成果指標	算出根拠等	指標名	単位	達成率(%)	#VALUE!	99	100	-
				目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
成果指標	算出根拠等	② 歩行者移動支援施設整備	箇所	目標値	-	24	15	24
				実績値	58	40	27	-
成果指標	算出根拠等	指標名	単位	達成率(%)	#VALUE!	167	180	-
				目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
コスト面	算出根拠等	①	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額	
				歳出(千円)(A)	188,564	214,511	183,000	110,000
コスト面	算出根拠等	②	受益者負担(使用料・負担金等)					
			その他特定財源(国・県支出金・起債等)	84,602	110,332	84,150	60,500	
コスト面	算出根拠等	③	一般財源	103,962	104,179	98,850	49,500	
			指標名	H21	H22	H23見込	H24計画	
コスト面	算出根拠等	④	受益者1件当たり(円)(A/B)	2,001	2,286	1,963	1,179	
			受益者 市民(4月1日現在)(B)	94,235	93,822	93,212	93,300	

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	道路施設バリアフリー整備5か年計画に基づき、順次整備を進めており、「住みやすい街を創ります」の公約に則している
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	A	市街地をはじめ、多くの地域や町内会からの要望が多い
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	既に整備されたものを含み、該当する道路を通行する市民へは事業効果がある
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	道路施設バリアフリー整備5か年計画に基づき、順次整備を行なっている。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	側溝改修・蓋設置、並びにカラー舗装により歩行空間の確保ができたまた、車道幅員を狭め、車両の通過速度が抑制されたことにより歩行者の安全な通行が確保された。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	支所地域にも事業を拡大している
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	側溝2次製品布設や舗装が基本的工種であるため、コスト削減は難しいが、工法を工夫することによりコスト削減や維持管理費の軽減化に向けて検討を進めている
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	観光客や通学する歩行者の安全確保、市街地のイメージアップなどの効果からおおむね適正である
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	事業費、事業効果、高山市のイメージアップ等多くの効果からすれば概ね適正である
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		13.0 / 20.0	100点換算 → 65 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・道路施設バリアフリー整備5か年計画に基づき整備を進める ・支所地域においても歩行空間確保に関わる整備を行なう				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・平成22年度事業評価において、市民などの声を聞きながら整備をすすめるとともに、コスト削減にも努める必要があるとの指摘をしており、工法や資材の比較検討によるコスト削減に引き続き取り組む必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	183,000	159,000	△ 24,000	175,000	175,000
財源内訳					
国庫支出金	84,150	63,360	△ 20,790	77,000	77,000
県支出金					
起債					
その他					
一般財源	98,850	95,640	△ 3,210	98,000	98,000

予算要求の概要	・道路施設バリアフリー化整備(歩行空間の確保)の実施 ・歩行者移動支援施設整備の実施(融雪ブロック+知らせるあかり)
要求額増減理由	バリアフリー整備事業にかかる施工延長の減
事業実施の課題	・工法や資材の比較検討によるコスト削減 ・歩車共存型道路における路上駐車による歩行者等の通行阻害 ・路肩部のカラー舗装(透水性)の耐久性についての検証

財務部査定の考え方	・要求どおり ・要求額からの増額分は、バリアフリー対策工事にあわせ消融雪側溝布設工事を実施
市長査定の考え方	・財務部査定のとおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	72440	臨時駐車場対策事業	担当課	基盤整備部 維持課	内線	2322
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	3 「すみよさ」のあるまちづくりをめざして	
	款	7 土木費		分野	3 道路・交通	
	項	2 道路橋りょう費		基本施策	1 便利で快適な道路環境を整備する	
	目	4 交通安全対策費		施策	4 道路利用環境の向上	
実施計画事業	臨時駐車場対策事業					
市長の約束						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民及び観光客等の道路網利用者	受益者数	93,312 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	市民及び観光客等の道路利用者のため、高山祭りやゴールデンウィーク等の特定日に臨時駐車場の開設を行ない市中心部の渋滞を緩和する		
概要	事業の実施手法(手段)	観光繁忙期には交通整理員を配置し、特に混雑が著しい春祭り・GW・お盆・秋祭りには、臨時駐車場の開設を行なう		
前回の評価からの改善・改革のポイント	臨時駐車場の設置において、仮設の身障者用トイレを設置した			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	①	指標名	単位	目標・実績				
				H21	H22	H23見込	H24計画	
活動指標	①	臨時駐車場開設数	力所	目標値	17	15	15	15
				実績値	13	6	11	-
活動指標	算出根拠等	達成率(%)		76	40	73	-	
成果面	②	指標名	単位	目標・実績				
				H21	H22	H23見込	H24計画	
成果面	②			目標値				
				実績値				
成果面	算出根拠等	達成率(%)					-	
成果指標	①	指標名	単位	目標・実績				
				H21	H22	H23見込	H24計画	
成果指標	①			目標値				
				実績値				
成果指標	算出根拠等	達成率(%)					-	
成果指標	②	指標名	単位	目標・実績				
				H21	H22	H23見込	H24計画	
成果指標	②			目標値				
				実績値				
成果指標	算出根拠等	達成率(%)					-	
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)				H21	H22	H23	H24
	決算額				決算額	決算額	予算額	実施計画額
	歳出(千円)(A)				20,039	19,297	21,270	21,000
	受益者負担(使用料・負担金等)					1,373		
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
コスト面	一般財源				20,039	17,924	21,270	21,000
	指標名				H21	H22	H23見込	H24計画
コスト面	①	受益者1件当たり(円)(A/B)		213	206	228	225	
				受益者	市民(4月1日現在)(B)	94,235	93,822	93,212
コスト面	②	算出根拠等						

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2) 結びつく	B(1) 一部結びつく	B	特に観光シーズンの市街地の渋滞緩和に対しては費用対効果の面からも最も有効な手段である。
	C(0) 結びつかない			
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2) 非常に多い、急増している	B(1) ある程度のニーズがある	A	高山祭をはじめとする観光シーズンには、観光客からの臨時駐車場開設についての問い合わせや要望が多い
	C(0) 少ない、減少している			
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2) 市民全体におよぶ	B(1) 概ね市民全体におよぶ	B	時期的には観光シーズン、エリア的には市街地と限定されるが、市内の渋滞緩和のための事業であり、市民全体に事業効果が及ぶと考えられる
	C(0) わずかな受益者に限定される			
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2) 十分に達成している (100%以上)	B(1) 概ね達成している (75%以上)	A	市内の駐車場が満車となる時点で開設するため、状況に応じて実施している
	C(0) あまり順調でない (75%未満)			
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2) 有効である	B(1) 概ね有効である	B	市内の駐車場が満車となる時点で開設するため、状況に応じて実施している
	C(0) 見直しが必要である			
⑥ 事業実施における課題の解消・前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2) 課題はない・解消されている	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる	B	幅広い利用者利便性向上のために仮設の身障者用トイレ等について検討をしている
	C(0) 対応していない			
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2) 課題はない・解消されている	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる	B	H22は臨時駐車場設置箇所数の見直しを行なった
	C(0) 対応していない			
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2) 適正である	B(1) 概ね適正である	B	車両を利用する観光客数は天候や社会情勢に左右されるため、受益者1件当たりのコストの比較が難しい
	C(0) 改善が必要である			
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4) 適正である	B(2) 概ね適正である	B	車両を利用する観光客数は天候や社会情勢に左右されるため、成果に対するコストの比較が難しい
	C(0) 改善が必要である			
合計		12.0 / 20.0	100点換算	60 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・観光シーズンにおける市街地の交通渋滞緩和のために継続して実施する				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・平成22年度事業評価において、今後は駐車場案内の強化により中心部の渋滞の緩和を図るとともに、大型バスの乗り入れ規制などについても検討が必要であるとの指摘をしており、今後さらに効果的な手法を研究していく必要がある。 ・臨時駐車場の開設時間など、開設方法を再検討する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	21,270	23,348	2,078	20,770	20,770
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
一般財源	21,270	23,348	2,078	20,770	20,770

予算要求の概要	・観光繁忙期における案内看板設置・交通誘導業務・テント設置・仮設トイレ設置・備品設置・シャトルバス運行(秋祭り)等の委託 ・仮設電話設置、レンタル携帯電話等の役務費
要求額増減理由	・交通誘導委託の増
事業実施の課題	・駐車場案内の強化により市街地の渋滞緩和を図るとともに、大型バスの乗り入れ規制などの検討も必要となる。

財務部査定の考え方	・積算内容を精査
市長査定の考え方	・財務部査定のとおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	72450	交通安全対策事務費	担当課	基盤整備部 維持課	内線	2322
予算	会計	1 一般会計	政策			
	款	7 土木費	分野			
	項	2 道路橋りょう費	基本施策			
	目	4 交通安全対策費	施策			
実施計画事業						
市長の約束						

1 事業の目的・概要(Plan)

誰を(対象)	道路交通網の利用者	受益者数	93,312 人
目的	交通安全対策、バリアフリー対策に関わる施設等の適正な維持管理を行い、交通安全の確保や事故防止を図る		
概要	交通安全対策、バリアフリー対策に関わる施設等の適正な維持管理を行なう		
前回の評価からの改善・改革のポイント	適正な維持管理を継続して行なう		

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	①	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		算出根拠等		達成率(%)				
成果面	②	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		算出根拠等		達成率(%)				-
成果指標	①	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		算出根拠等		達成率(%)				-
成果指標	②	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		算出根拠等		達成率(%)				-
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出 (千円) (A)				1,799	2,106	2,312	0
	受益者負担(使用料・負担金等)				1,067			
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
コスト面	一般財源				732	2,106	2,312	
	指標名				H21	H22	H23見込	H24計画
	①	受益者1件当たり (円) (A/B)			19	22	25	
		受益者	市民(4月1日現在) (B)		94,235	93,822	93,212	93,200
②	算出根拠等							

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準			評価	評価内容の説明など
	A (2)	B (1)	C (0)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A (2)	結びつく		評価対象外	事務的な経費であり総合計画・市長公約等からの評価はできない
	B (1)	一部結びつく			
	C (0)	結びつかない			
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A (2)	非常に多い、急増している		B	交通安全の施設整備に関する要望は非常に多く、それに付随する維持管理事務であるためニーズは高い
	B (1)	ある程度のニーズがある			
	C (0)	少ない、減少している			
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A (2)	市民全体におよぶ		B	市内全域を対象とする交通安全施設の維持管理事務であるため概ね市民全体に及ぶ
	B (1)	概ね市民全体におよぶ			
	C (0)	わずかな受益者に限定される			
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A (2)	十分に達成している (100%以上)		評価対象外	事務的な経費であり評価はできない
	B (1)	概ね達成している (75%以上)			
	C (0)	あまり順調でない (75%未満)			
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A (2)	有効である		B	交通安全施設やバリアフリー道路施設対策に関わる適正な維持管理を継続して行なっている
	B (1)	概ね有効である			
	C (0)	見直しが必要である			
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A (2)	課題はない・解消されている		B	交通安全施設やバリアフリー道路施設対策に関わる適正な維持管理を継続して行なっている
	B (1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C (0)	対応していない			
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A (2)	課題はない・解消されている		B	電気使用料削減のためLEDやソーラーなどへの切り替え検討している
	B (1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C (0)	対応していない			
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A (2)	適正である		B	市内全域対象としており、概ね適正である
	B (1)	概ね適正である			
	C (0)	改善が必要である			
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A (4)	適正である		B	市内全域を対象とする交通安全施設の維持管理事務であるため概ね適正である
	B (2)	概ね適正である			
	C (0)	改善が必要である			
合計				8.0 / 16.0	100点換算 → 50 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	ランニングコストや環境にも配慮した新たな資材・工法の検討を行なう				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・交差点照明機器の更新時に、LED照明器具へシフトし、ランニングコストの削減を図る必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部 査定額	市長 査定額
歳出 (千円)	2,312	2,573	261	2,117	2,117
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
一般財源	2,312	2,573	261	2,117	2,117

予算要求の概要	・交通安全設備(照明、点滅板など)や市営駐車場案内用電気表示施設の維持管理に要する経費
要求額増減理由	・交差点照明や点滅板などの増加に伴う電気料の増
事業実施の課題	・経年劣化に伴い、保守点検や維持管理費の増加が懸念される

財務部査定の考え方	・積算内容を精査
市長査定の考え方	・財務部査定のとおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	72500	除雪対策事業費 (流雪溝・消融雪装置を除く)		担当課	基盤整備部 維持課		内線	2322
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	3	「すみよさ」のあるまちづくりをめざして	
	款	7	土木費		分野	8	防災	
	項	2	道路橋りょう費		基本施策	1	災害に強いまちをつくる	
	目	5	除雪対策費		施策	1	雪害の防止	
	実施計画事業	除雪対策事業						
市長の約束	6	市民の生活と生命・財産を守ります。雪またじの苦労を軽減するため、流雪溝の整備を積極的に行います。						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	道路交通網の利用者	受益者数	93,312人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	冬期間の道路除雪及び除雪補完作業による交通確保を行い、誰もが安心、安全な暮らしを守るため実施する		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・高山市除雪計画に基づく除雪の実施 ・市道除雪延長約1,000kmの実施委託料及び凍結防止対策としての薬剤購入 ・私道等の除雪実施のための除雪機購入費の補助 		
前回の評価からの改善・改革のポイント	除雪延長の見直し 市道の除雪未実施路線や私道について除雪を検討			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	① 除雪延長	単位	m	指標名				
				目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
成果面	算出根拠等			目標値	-	1,000	1,000	1,000
				実績値	998	1,003	1,005	-
成果指標	② 除雪延長(累計)		m	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	算出根拠等			達成率(%)	#VALUE!	100	101	-
コスト面	①			目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	算出根拠等			達成率(%)				
コスト面	②			目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	算出根拠等			達成率(%)				
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額	
	歳出(千円)			(A)	499,574	433,629	413,000	427,000
	受益者負担(使用料・負担金等)				593	55		
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				15,220	9,515		
	一般財源				483,761	424,059	413,000	427,000
コスト面	① 受益者1件当たり(円)			(A/B)	5,301	4,622	4,431	4,582
	② 受益者 市民(4月1日現在)			(B)	94,235	93,822	93,212	93,200
	算出根拠等							
	算出根拠等							

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A	B		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A (2)	結びつく	A	除雪計画に基づき、市内全域の除雪を実施しており、「住みやすい街を創ります」の公約に則している実施計画事業に基づき実施している
	B (1)	一部結びつく		
	C (0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A (2)	非常に多い、急増している	A	冬期における交通の確保(除雪、融雪を含む)に関する要望は非常に多い
	B (1)	ある程度のニーズがある		
	C (0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A (2)	市民全体におよぶ	A	高山市内全域に渡って除雪を実施している
	B (1)	概ね市民全体におよぶ		
	C (0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A (2)	十分に達成している (100%以上)	A	除雪計画に基づき、市内全域の除雪を実施している
	B (1)	概ね達成している (75%以上)		
	C (0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A (2)	有効である	A	除雪により冬期における高山市内全域の交通確保を実施する
	B (1)	概ね有効である		
	C (0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A (2)	課題はない・解消されている	B	除雪に関する要望が多いため、除雪未実施路線の市道や私道について検討を行なっている
	B (1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A (2)	課題はない・解消されている	B	降雪の量や日数などにより極端に変動するため
	B (1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A (2)	適正である	B	市内全域の除雪を実施しており、市民全員が対象であることを考えると概ね適正である
	B (1)	概ね適正である		
	C (0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A (4)	適正である	A	事業費と人件費との比率からすれば適正である
	B (2)	概ね適正である		
	C (0)	改善が必要である		
合計		17.0 / 20.0	100点換算 → 85 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	<ul style="list-style-type: none"> ・冬期における交通やその安全を確保するため除雪対策は継続して実施する 				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	<ul style="list-style-type: none"> ・除雪路線延長は1000kmにものぼるため、降雪日数に左右されるものの除雪経費は多額であり、除雪路線や出動基準を整理する必要がある。 ・平成22年度事業評価において、除雪機購入補助制度の更なる周知などにより市民との協働による除雪体制の構築を図る必要があるとの指摘をしており、引き続き市民の協力体制を構築することについても取組む必要がある。 				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	412,000	415,309	3,309	459,000	459,000
国庫支出金		18,000	18,000	17,600	17,600
県支出金	3,000	4,000	1,000	3,000	3,000
起債					
その他					
一般財源	409,000	393,309	△ 15,691	438,400	438,400

予算要求の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・歩車道L=約1,000kmの道路除雪の実施及び凍結防止薬剤の購入 ・町内会等への除雪機購入費に対する助成
要求額増減理由	薬剤購入費の増による
事業実施の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・雪またじ方針に基づく住民と一体になった除雪体制づくり ・未実施路線の対応

財務部査定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の除雪状況を考慮し除雪費を増額 ・除雪機購入に対する助成は、利用実績が少ないことから予算額を減額
市長査定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・財務部査定のとおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	72500	流雪溝整備事業		担当課	基盤整備部 維持課		内線
枝番	2					2326	
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして
	款	7	土木費		分野	8	防災
	項	2	道路橋りょう費		基本施策	1	災害に強いまちをつくる
	目	5	除雪対策費		施策	1	雪害の防止
実施計画事業	消融雪側溝整備事業5か年計画						
市長の約束	6	市民の生活と生命・財産を守ります。雪またじの苦労を軽減するため、流雪溝の整備を積極的に行います。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	沿線地域住民(神田町1～名田町2)及び通過車両	受益者数	—	人
目的	どういった状態にしたいのか(意図)	中心市街区域では高齢化、空洞化に伴い「雪またじ」に必要な機動力についても懸念されているため、「誰でも安全で安心して暮らせるまちづくり」を目指し、高齢者、女性が無理なく安全に利用でき、地域住民が協働で「雪またじ」に取り組める施設の整備(消融雪側溝整備)を行う。			
概要	事業の実施手法(手段)	市街地道路狭隘地区(神田町1～名田町2)までの整備延長約2kmの既設側溝を消融雪側溝にて敷設し、「雪またじ」に取り組める施設整備を図る。			
前回の評価からの改善・改革のポイント	・上流からの流水、地下水ポンプからの水を効率良く利用し有効活用する。 ・側溝の深さの変更や止水板の設置により、分岐する水の量が減ることの無いよう施工する。				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				① 消融雪側溝整備延長	m	目標値	334
算出根拠等			実績値	334	365	580	-
算出根拠等			達成率(%)	100	100	100	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値			
算出根拠等			実績値				
算出根拠等			達成率(%)				-
②	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値			
算出根拠等			実績値				-
算出根拠等			達成率(%)				-
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)(A)			27,866	27,610	39,000	40,000
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				15,185	21,450	22,000
一般財源			27,866	12,425	17,550	18,000	
コスト指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				① 受益者1件当たり(円)(A/B)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
	受益者	(B)					
	算出根拠等						

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準			評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)	C(0)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく		A	・消融雪側溝整備は、第七次総合計画(後期)、市長公約にも位置づけられ、住民主体の除雪体制を構築する上でも、整備の重要性は高い。
	B(1)	一部結びつく			
	C(0)	結びつかない			
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している		A	・中心市街地で道路幅員が狭く雪を堆積する場所が少ない地域では、良好な除雪状況を確認したいという市民ニーズが強い。 ・他の市街地の市民においても除雪状況を良好にしたい願いは強く整備地域の拡大を求められている。
	B(1)	ある程度のニーズがある			
	C(0)	少ない、減少している			
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ		B	・現5か年の計画では中心市街地のみであるため事業効果はこの地域に限定される。 ・水を安定して確保できる区域であれば整備可能なため、概ね市民全体に事業効果が及ぶ。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ			
	C(0)	わずかな受益者に限定される			
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)		A	・5か年の整備計画どおり整備を実施している。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)			
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)			
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である		A	・投雪口の箇所数については限定しているため、利用率が向上するよう、町内の意見を取り入れ位置確定して施工。
	B(1)	概ね有効である			
	C(0)	見直しが必要である			
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている		B	・下流域から整備実施しているため、5か年の最終年度でなければ取出口まで改良できないので安定した水を確保できない。 ・側溝の深さの変更や止水板の設置により、分岐する水の量が減ることの無いよう施工する。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている		B	・消融雪側溝整備は、特殊構造で設置部品等があるため比較的高額である。そのため、既設水路を利用可能な箇所は、消融雪側溝メーカーの部品利用し簡易融雪側溝とすることでコストの削減を図っている。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である		A	・地域住民の力により、協働作業で除雪対策をおこなえることから、事業完了後の成果も含めると適正である。
	B(1)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である		A	・事業を担当する職員は他に多数の事業をもちながら実施していることから、事業に係る人件費はわずかである。また、日々の除雪を地域住民で実施可能なため、成果に対するコストは適正である。
	B(2)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
合計				17.0 / 20.0	100点換算 → 85 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・消融雪側溝の機能を最大限に発揮させるため5か年計画に基づき事業進捗を図る。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・平成22年度事業評価において、流雪溝が本来の機能を発揮するためには、まちなかの側溝の効果的な流水について検討する必要があるとの指摘をしており、引き続きこうした取り組みを行うとともに、既設側溝に安価に消融雪機能を持たせ、より多くの流雪溝整備が可能となるような研究を進める必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	17,000	43,000	26,000	18,000	18,000
国庫支出金	8,800	23,100	14,300	9,350	9,350
県支出金					
起債					
その他					
一般財源	8,200	19,900	11,700	8,650	8,650

予算要求の概要	・消融雪側溝の整備
要求額増減理由	・整備延長の増
事業実施の課題	・消融雪側溝の機能を発揮させるための安定した水量の確保

財務部査定の考え方	・要求どおり ・要求額からの減額分は、消融雪側溝布設工事の一部を道路施設バリアフリー整備事業へ移行したため
市長査定の考え方	・財務部査定のとおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	72500	道路融雪装置等整備事業		担当課	基盤整備部 維持課		内線	2326
枝番	3							
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして	
	款	7	土木費		分野	8	防災	
	項	2	道路橋りょう費		基本施策	1	災害に強いまちをつくる	
	目	5	除雪対策費		施策	1	雪害の防止	
実施計画事業								
市長の約束 6 市民の生活と生命・財産を守ります。								

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	沿線地域住民及び通過車両、歩行者	受益者数	——— 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	市道の冬期の除雪・凍結による事故防止のため、急坂路や急カーブの箇所には融雪施設を設置する。		
概要	事業の実施手法(手段)	定置式凍結防止剤自動散布装置を設置し、市道の融雪により事故の減少を図る。		
前回の評価からの改善・改革のポイント	・住宅地では、定置式凍結防止剤自動散布装置から融雪剤の散布することにより多少の塩害が発生することや、景観を損ねる等設置を拒まれる傾向がある。			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 定置式凍結防止剤自動散布装置数	基	目標値		0	3	3	3
実績値				0	3	3	3	3
算出根拠等			達成率(%)			100	100	-
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	②	目標値						
実績値								
算出根拠等			達成率(%)					-
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H21	H22	H23	H24		
	決算額		10,815	11,109	11,000	10,000		
	歳出(千円)(A)		10,815	11,109	11,000	10,000		
	受益者負担(使用料・負担金等)				0	0		
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			6,109	6,050	5,500		
一般財源		10,815	5,000	4,950	4,500			
コスト指標	指標名		H21	H22	H23見込	H24計画		
	① 受益者1件当たり(円)(A/B)		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!		
	受益者(B)							
	算出根拠等							

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準			評価	評価内容の説明など	
	A(2)	B(1)	C(0)			
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく		A	・住民主体の除雪体制を構築する上でも、整備の重要性は高い。	
	B(1)	一部結びつく				
	C(0)	結びつかない				
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している		A	・冬期において良好な除雪状況を確認したいという市民ニーズが強い。 ・市道の凍結による事故の危険箇所を少しでも減らし市民の不安解消の上でも要望が多い	
	B(1)	ある程度のニーズがある				
	C(0)	少ない、減少している				
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ		B	・市道の急勾配や凍結の解消により、市道を利用する不特定多数の車両の安全、安心を確保する目的から概ね効果が市民全体に及ぶ。	
	B(1)	概ね市民全体におよぶ				
	C(0)	わずかな受益者に限定される				
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)		B	・道路融雪装置については、イニシャルコスト、ランニングコストとも高額であるため新規の設置は行っていないが、定置式凍結防止剤自動散布装置を年間3基設置においても、スリップ事故の軽減につながっている。	
	B(1)	概ね達成している (75%以上)				
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)				
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である		B	・冬期にスリップ等市民が危険な思いをし、要望が上がってきた箇所を調査し定置式凍結防止剤自動散布装置を選定して設置を行っている。	
	B(1)	概ね有効である				
	C(0)	見直しが必要である				
⑥ 事業実施における課題の解消・前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている		B	・塩害等の被害や苦情が出ないよう、また、融雪による事故防止効果がより発揮出来るよう設置位置の精査、検証を行っている。	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる				
	C(0)	対応していない				
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている		B	・融雪装置はトータルコストが高額であるため、定置式凍結防止剤自動散布装置により、事故防止を主に設置していることでコスト的には削減できている。	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる				
	C(0)	対応していない				
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である		A	・交通量が概ね多く要望の多いところの生活道路に設置しているため受益がある市民1件当たりのコストは低い。	
	B(1)	概ね適正である				
	C(0)	改善が必要である				
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である		A	・設置後の融雪剤の補給や保守点検は必要であるが成果に対するコストは適正である。	
	B(2)	概ね適正である				
	C(0)	改善が必要である				
合計				15.0 / 20.0	100点換算	75 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・七次総計画に沿って定置式凍結防止剤自動散布装置を3箇所設置する。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・道路融雪装置等を計画的に整備する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	11,000	12,000	1,000	11,000	11,000
国庫支出金	6,050	6,600	550	6,050	6,050
県支出金					
起債					
その他					
一般財源	4,950	5,400	450	4,950	4,950

予算要求の概要	定置式凍結防止剤散布装置の設置
要求額増減理由	
事業実施の課題	

財務部査定の考え方	・計画どおり定置式凍結防止剤自動散布装置を3箇所設置
市長査定の考え方	・財務部査定のとおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	72510	除雪事務費		担当課	基盤整備部 維持課	内線	2322
予算	会計	1	一般会計	政策			
	款	7	土木費	分野			
	項	2	道路橋りょう費	基本施策			
	目	5	除雪対策費	施策			
実施計画事業							
市長の約束							

1 事業の目的・概要(Plan)

誰を(対象)	道路交通網の利用者	受益者数	93,312 人
目的	除雪事業を補完するソフト事業を実施し、円滑な除雪対策を推進する		
概要	事業の実施手法(手段) ・高山市除雪計画の印刷製本(各関係団体及び各町内会への送付用) ・除雪機械の看板作成「高山市 除雪中」		
前回の評価からの改善・改革のポイント	円滑な除雪対策のために継続して実施する		

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	①	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		算出根拠等			目標値			
				実績値				-
				達成率(%)				-
成果面	②	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		算出根拠等			目標値			
				実績値				-
				達成率(%)				-
成果指標	①	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		算出根拠等			目標値			
				実績値				-
				達成率(%)				-
コスト面	①	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額	
		歳出(千円)(A)	314	280	380	0		
		受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源	314	280	380			
コスト指標	①	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		受益者1件当たり(円)(A/B)		3	3	4		
		受益者市民(4月1日現在)(B)		94,235	93,822	93,212	93,200	
		算出根拠等						

3 分析・評価(Check)

必要性	①	事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	評価基準	評価	評価内容の説明など
		A(2) 結びつく	B(1) 一部結びつく	C(0) 結びつかない	評価対象外
成果面	②	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2) 非常に多い、急増している	B	除雪計画の中でも、特に除雪路線に対する関心が強い
		B(1) ある程度のニーズがある			
		C(0) 少ない、減少している			
コスト面	③	事業効果が市民全体に及ぶか	A(2) 市民全体におよぶ	A	除雪計画を策定し、各町内会へ配布することで全市民への周知を図っている
		B(1) 概ね市民全体におよぶ			
		C(0) わずかな受益者に限定される			
成果対コスト	④	事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2) 十分に達成している (100%以上)	評価対象外	事務的な経費であり評価はできない
		B(1) 概ね達成している (75%以上)			
		C(0) あまり順調でない (75%未満)			
成果対コスト	⑤	成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2) 有効である	A	除雪計画を策定し、各町内会へ配布することで全市民への周知を図っている
		B(1) 概ね有効である			
		C(0) 見直しが必要である			
成果対コスト	⑥	事業実施における課題の解消・前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2) 課題はない・解消されている	B	除雪路線に関し、高山地域の詳細図添付を望む声があるが、量的に膨大となる反面、各町内会では該当する町内会以外の地域は不要であるため、当計画の図面として添付するのは困難である
		B(1) 改善・工夫に取り組んでいる			
		C(0) 対応していない			
成果対コスト	⑦	コスト削減に向けた改善・工夫	A(2) 課題はない・解消されている	B	詳細な路線図の添付などを省略できないかを検討している
		B(1) 改善・工夫に取り組んでいる			
		C(0) 対応していない			
成果対コスト	⑧	受益者1件当たりのコスト	A(2) 適正である	B	市内全域への除雪計画の周知から、市民全員が対象であることを考えると概ね適正である
		B(1) 概ね適正である			
		C(0) 改善が必要である			
成果対コスト	⑨	成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4) 適正である	B	事業効果とコストとの比率からすれば概ね適正である
		B(2) 概ね適正である			
		C(0) 改善が必要である			
合計			10.0 / 16.0	100点換算	63 / 100

4 今後の方向性(Action1)

○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
次年度の実施方針(担当課評価) ・除雪計画の周知徹底、除雪に対する市民の協力等呼び掛けるためにも継続して実施する				

○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
総合評価(二次評価) (担当課評価に同じ)				

議会からの提言等

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	380	356	△ 24	380	380
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
一般財源	380	356	△ 24	380	380

予算要求の概要	・高山市除雪計画の作成など
要求額増減理由	
事業実施の課題	

財務部査定の考え方	・要求どおり
市長査定の考え方	・財務部査定のとおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	73100	河川草刈業務委託費	担当課	基盤整備部 維持課	内線	2322
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	3 「すみよさ」のあるまちをめざして	
	款	7 土木費		分野	1 自然	
	項	3 河川費		基本施策	1 恵まれた自然を守り活かす	
	目	1 河川維持費		施策	4 水と親しむ場の整備	
実施計画事業	河川美化推進事業					
市長の約束						

1 事業の目的・概要(Plan)

誰を(対象)	全市民	受益者数	93,312 人
目的	1級河川沿いにおいて地元団体等で除草等を実施し恵まれた自然環境を保全する		
概要	1級河川の堤防沿い約338,000㎡の除草作業を実施		
前回の評価からの改善・改革のポイント	河川の自然環境を保全するために継続して実施する		

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画			
				目標値	実績値					
①	除草面積	㎡	目標値		33,800	33,800	33,800			
			実績値	33,800	33,800	-				
算出根拠等			達成率(%)	#DIV/0!	100		-			
成果面	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画			
				目標値	実績値					
②			目標値				-			
			実績値				-			
算出根拠等			達成率(%)				-			
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画			
				目標値	実績値					
①			目標値				-			
			実績値				-			
算出根拠等			達成率(%)				-			
コスト面	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画			
				目標値	実績値					
①	受益者1件当たり (円)	(A/B)	目標値	143	143	144	144			
			実績値	94,235	93,822	93,212	93,200			
算出根拠等			達成率(%)				-			
財源内訳	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額			
	歳出 (千円) (A)			13,451	13,376	13,460	13,400			
	受益者負担(使用料・負担金等)									
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			13,451	13,376	13,460	13,400			
一般財源										
コスト指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画			
				目標値	実績値					
				①	受益者1件当たり (円)	(A/B)	143	143	144	144
				②	受益者 市民(4月1日現在)	(B)	94,235	93,822	93,212	93,200
算出根拠等			達成率(%)				-			

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	実施計画事業に基づき実施している
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	市内全域の1級河川において町内会や河川を美しくする会において草刈り作業を実施している
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	高山市内全域の1級河川にて草刈り作業を実施している
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	例年、同様の草刈り業務を継続して実施している
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	河川付近の各町内会や河川を美しくする会において草刈り作業を実施し、県からの委託費を支払っている
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消・前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	市内一斉清掃と同時期に行なわれており、その一部として実施しているため、その他の清掃活動と混在する形となる
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	A	指定された面積を地元で草刈りを実施してもらい、県からの委託費を支払っている
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	市内全域の1級河川の草刈を実施しており、多くの市民が参加していることを考えると概ね適正である
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	A	県からの委託費を支払っており概ね適正である
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		15.0 / 20.0	100点換算 → 75 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・市内の河川の草刈りを行なうことで自然環境を守り、環境を保全するためにも継続して実施する				
総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・農地除草などと時期を合わせるなど実施時期について検討する必要がある。				
議会からの提言等					

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部 査定額	市長 査定額
歳出 (千円)	13,430	13,376	△ 54	13,400	13,400
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金	13,430	13,376	△ 54	13,400	13,400
起債					
その他					
一般財源	0	0		0	0

予算要求の概要	1級河川の堤防除草
要求額増減理由	
事業実施の課題	

財務部査定の考え方	・要求どおり
市長査定の考え方	・財務部査定のとおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	73105	河川清掃業務委託費	担当課	基盤整備部 維持課	内線	2322
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	3 「すみよさ」のあるまちをめざして	
	款	7 土木費		分野	1 自然	
	項	3 河川費		基本施策	1 恵まれた自然を守り活かす	
	目	1 河川維持費		施策	4 水と親しむ場の整備	
実施計画事業	河川美化推進事業					
市長の約束						

1 事業の目的・概要(Plan)

誰を(対象)	全市民	受益者数	93,312 人
目的	河川内のごみ等の収集や日常管理が困難な排水路の暗渠部分の土砂上げを行い、水路機能を維持し環境の保全を図る		
概要	事業の実施手法(手段) ・河川内のごみ等の収集 ・通常管理できない用排水路の暗渠部分の土砂上げ		
前回の評価からの改善・改革のポイント	河川等の自然環境を保全し、側溝や水路の機能を確保するために継続して実施する		

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
①	業務回数(除草収集)	回	目標値		4	4	4
			実績値	4	4	4	-
算出根拠等			達成率(%)	#DIV/0!	100	100	-
成果面	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
②			目標値				
			実績値				-
算出根拠等			達成率(%)				-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
①			目標値				
			実績値				-
算出根拠等			達成率(%)				-
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)	歳出(千円)	(A)	H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
				4,000	4,000	4,000	4,000
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
一般財源		4,000		4,000	4,000	4,000	
	指標名			H22	H23見込	H24計画	
①	受益者1件当たり(円)	(A/B)	42	43	43	43	
	受益者 市民(4月1日現在)	(B)	94,235	93,822	93,212	93,200	
②							
算出根拠等							

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準			評価	評価内容の説明など	
	A(2)	B(1)	C(0)			
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく		B	実施計画事業に基づき実施している	
	B(1)	一部結びつく				
	C(0)	結びつかない				
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している		A	河川内のごみ等の収集や通常管理できない用排水路の暗渠部分の土砂上げに関する要望は非常に多い	
	B(1)	ある程度のニーズがある				
	C(0)	少ない、減少している				
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ		B	高山市内全域に渡って業務を実施している	
	B(1)	概ね市民全体におよぶ				
	C(0)	わずかな受益者に限定される				
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)		A	計画通り業務を実施している	
	B(1)	概ね達成している (75%以上)				
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)				
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である		B	河川等の自然環境を保全するために河川内のごみ等の収集や通常管理できない用排水路の暗渠部分の土砂上げを実施しており、環境や水路機能等の保全が図られている	
	B(1)	概ね有効である				
	C(0)	見直しが必要である				
⑥ 事業実施における課題の解消・前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている		B	河川等の自然環境を保全するために継続して実施する	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる				
	C(0)	対応していない				
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている		B	市民の協力や意識向上がコスト削減につながっていくため町内会の理解や協力をお願いしている	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる				
	C(0)	対応していない				
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である		B	市内全域での作業を実施しており、市民全員が対象であることを考えると概ね適正である	
	B(1)	概ね適正である				
	C(0)	改善が必要である				
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である		B	事業内容からすれば概ね適正である	
	B(2)	概ね適正である				
	C(0)	改善が必要である				
合計				12.0 / 20.0	100点換算	60 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・河川等の自然環境を保全し、側溝や水路の機能を確保するために継続して実施する				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	(担当課評価に同じ)				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	4,000	4,000	0	4,000	4,000
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
一般財源	4,000	4,000	0	4,000	4,000

予算要求の概要	河川草刈り時の草の収集及び水路暗渠部の土砂上げ等の業務委託
要求額増減理由	
事業実施の課題	

財務部査定の考え方	・要求どおり
市長査定の考え方	・財務部査定のとおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	73106	市街地河川美化業務費	担当課	基盤整備部 維持課	内線	2322
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	3 「すみよさ」のあるまちをめざして	
	款	7 土木費		分野	1 自然	
	項	3 河川費		基本施策	1 恵まれた自然を守り活かす	
	目	1 河川維持費		施策	4 水と親しむ場の整備	
実施計画事業	河川美化推進事業					
市長の約束						

1 事業の目的・概要(Plan)

誰を(対象)	全市民	受益者数	93,312 人
目的	観光客の多い市街地周辺の河川清掃を行うことにより景観の向上を図る		
概要	事業の実施手法(手段) ・宮川・江名子川・苔川の清掃業務を地元河川を美しくする会へ委託する ・市民の手では困難な場所においては専門業者に委託する		
前回の評価からの改善・改革のポイント	市街地周辺の河川の自然環境を保全するために継続して実施する		

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
①	河川清掃回数	回	目標値		10	10	10
			実績値	10	10	10	-
算出根拠等			達成率(%)	#DIV/0!	100	100	-
成果面	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
②			目標値				
			実績値				-
算出根拠等			達成率(%)				-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
①			目標値				
			実績値				-
算出根拠等			達成率(%)				-
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)	歳出(千円)	(A)	H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
				1,325	1,307	1,600	1,600
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
一般財源	1,325	1,307	1,600	1,600			
コスト指標	指標名	単位	目標・実績	H22	H23見込	H24計画	
				目標値	実績値	目標値	実績値
①	受益者1件当たり(円)	(A/B)	目標値	14	14	17	
			実績値	14	14	17	
②	受益者	市民(4月1日現在)	(B)	目標値	94,235	93,822	
				実績値	94,235	93,822	
算出根拠等							

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準			評価	評価内容の説明など	
	A(2)	B(1)	C(0)			
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく		B	実施計画事業に基づき実施している	
	B(1)	一部結びつく				
	C(0)	結びつかない				
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している		B	市街地周辺の河川において、観光客や地域住民の河川美化に対する関心が高く要望も強い	
	B(1)	ある程度のニーズがある				
	C(0)	少ない、減少している				
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ		B	街地周辺の河川において清掃業務を実施することで高山市のイメージアップにつながる	
	B(1)	概ね市民全体におよぶ				
	C(0)	わずかな受益者に限定される				
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)		A	例年、河川清掃業務を継続して実施している	
	B(1)	概ね達成している (75%以上)				
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)				
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である		B	市街地付近の河川のイメージアップを図るため各河川を美しくする会や業者において清掃業務を実施し委託費を支払っている	
	B(1)	概ね有効である				
	C(0)	見直しが必要である				
⑥ 事業実施における課題の解消・前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている		B	市内一斉清掃と同時期に行なわれており、その一部として実施しているため、その他の清掃活動と混在する形となっている	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる				
	C(0)	対応していない				
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている		B	例年、同様の河川清掃業務を実施してもらい委託費を支払っている	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる				
	C(0)	対応していない				
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である		B	市街地付近の河川を清掃業務を実施しており、河川の環境保全と高山市のイメージアップに寄与していることを考えると概ね適正である	
	B(1)	概ね適正である				
	C(0)	改善が必要である				
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である		B	事業内容とその効果からすれば概ね適正である	
	B(2)	概ね適正である				
	C(0)	改善が必要である				
合計				11.0 / 20.0	100点換算	55 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・観光客の多い市街地周辺の河川の環境保全と高山市のイメージアップを図るため継続して実施する				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	(担当課評価に同じ)				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	1,600	1,600	0	1,600	1,600
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
一般財源	1,600	1,600	0	1,600	1,600

予算要求の概要	景観向上のための高山市街地の河川清掃の委託
要求額増減理由	
事業実施の課題	

財務部査定の考え方	・要求どおり
市長査定の考え方	・財務部査定のとおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	73110	普通河川占用許可事務費	担当課	基盤整備部 維持課	内線	2322
予算	会計	1 一般会計	政策			
	款	7 土木費	分野			
	項	3 河川費	基本施策			
	目	1 河川維持費	施策			
実施計画事業						
市長の約束						

1 事業の目的・概要(Plan)

誰を(対象)	全市民	受益者数	93,312 人
目的	河川管理、法定外公共物使用許可等の適正な処理を行う		
概要	事業の実施手法(手段) ・法定外公共物の使用申請 ・廃止届の受理、許可、使用料の徴収		
前回の評価からの改善・改革のポイント	河川管理を行なうために継続して実施する		

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
①	法定外公共物許可件数(新規分)	件	目標値		30	30	30
			実績値	29	30	30	-
算出根拠等			達成率(%)	#DIV/0!	100	100	-
成果面	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
②	法定外公共物許可件数(更新分)	件	目標値		182	80	80
			実績値	217	182	80	-
算出根拠等			達成率(%)	#DIV/0!	100	100	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
①			目標値				-
			実績値				-
算出根拠等			達成率(%)				-
②			目標値				-
			実績値				-
算出根拠等			達成率(%)				-
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)(A)			593	579	620	620
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			593	579	620	620
コスト指標	指標名			H22	H23見込	H24計画	
	①	受益者1件当たり(円)(A/B)	6	6	7	7	
		受益者市民(4月1日現在)(B)	94,235	93,822	93,312	93,200	
	算出根拠等						

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	B	事務的な経費であり総合計画・市長公約等からの評価はできない
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	河川を維持管理するためには必要であり、条例に基づき処理するものであることから重要性は高い
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	A	河川を維持管理するためには必要であり、市民のみならず事業者等にもその範囲は及ぶ
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	法定外公共物許可(新規及び許可)を必要に応じ処理を行なっている
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	法定外公共物許可(新規及び許可)を必要に応じ処理を行なっている
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	条例に定められているため、継続して実施している
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト縮減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	必要経費のみの計上である
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	必要経費のみの計上であり、必要性の面からしても概ね適正である
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	必要経費のみの計上であり、必要性の面からしても概ね適正である
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		11.0 / 18.0	100点換算	61 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・河川を維持管理するためには必要であり、条例に基づき処理するものであることから継続して実施する				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・現在水路の管理については、その用途に応じ複数の部署で管理しているが、整理・統合できないか検討する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部 査定額	市長 査定額
歳出(千円)	640	693	53	640	640
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他	640	693	53	640	640
一般財源	0	0		0	0

予算要求の概要	河川を管理するために必要な事務費、水門管理者に対する謝礼
要求額増減理由	
事業実施の課題	・法定外公共物の不正使用等に対する対策や市民への周知

財務部査定の考え方	・積算内容を精査し前年並み事務費とする
市長査定の考え方	・財務部査定のとおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	73115	普通河川整備事業	担当課	基盤整備部 維持課	内線	2326
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	3 「すみよさ」のあるまちをめざして	
	款	7 土木費		分野	8 防災	
	項	3 河川費		基本施策	1 災害に強いまちをつくる	
	目	1 河川維持費		施策	3 豪雨災害の防止	
実施計画事業						
市長の約束	6	市民の生活と生命・財産を守ります。土石流等の自然災害に備える防災施設の施工を進め実践的な防災訓練を実施します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	普通河川の受益を受けている全ての市民	受益者数	— 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	普通河川周囲の良質な生活環境の確保と、豪雨による災害を防止するため、護岸や河床の整備を実施し、市民の安全と財産を守る。		
概要	事業の実施手法(手段)	雨水排水等による溢水箇所の普通河川をその箇所に適した工法で整備し、環境保全を図る。		
	前回の評価からの改善・改革のポイント	普通河川において緊急性、整備効果の高い箇所より実施し市民の安全を確保する。		

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
			m	目標値			
	算出根拠等		実績値				
			達成率(%)				-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
			目標値				
	算出根拠等		実績値				
			達成率(%)				-
コスト指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
			目標値				
	算出根拠等		実績値				
			達成率(%)				-
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)(A)			100,457	105,513	101,000	70,000
	受益者負担(使用料・負担金等)					0	0
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				30,000	0	0
	一般財源			100,457	75,513	101,000	70,000
	指標名	H21	H22	H23見込	H24計画		
① 受益者1件当たり(円)(A/B)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!			
② 受益者(B)							
算出根拠等							

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A (2) 結びつく	A	・第七次総合計画(後期)、市長公約にも位置付けられ、自然災害から生命・財産を守る上でも、整備の重要性は高い。
	B (1) 一部結びつく		
	C (0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A (2) 非常に多い、急増している	A	・住宅地周辺、農地にある排水路を整備することで、近年の豪雨による家屋、田畑を浸水から守ることが出来るため、河川整備の市民要望が多い。
	B (1) ある程度のニーズがある		
	C (0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A (2) 市民全体におよぶ	A	・市民が居住する周囲には普通河川、排水路が多いため、普通河川を整備することで市民全体に事業効果が及ぶ。
	B (1) 概ね市民全体におよぶ		
	C (0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A (2) 十分に達成している (100%以上)	B	・町内、改良組合等の要望を計画予算において順次整備実施している。
	B (1) 概ね達成している (75%以上)		
	C (0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A (2) 有効である	A	・普通河川を整備により排水機能を向上させることにより、豪雨等から市民の安全・安心を確保し、良好な生活環境を保つ。
	B (1) 概ね有効である		
	C (0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消・前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A (2) 課題はない・解消されている	B	・排水機能優先ではなく、周囲居住環境に合った河川整備を少しずつ取り入れ実施。
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A (2) 課題はない・解消されている	B	・二次製品の使用による工事コストの削減
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A (2) 適正である	A	・普通河川を整備により排水効率を向上により、豪雨による雨水排水が良好となり生活環境が改善されることから、受益者は多く、コストは適正である。
	B (1) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A (4) 適正である	A	・事業を担当する職員は他に多数の事業をもちながら実施していることから、事業に係る人件費はわずかである。整備には二次製品を使用しコストを下げているため適正である。
	B (2) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
合計	17.0 / 20.0	100点換算	85 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ 完了
	・引き続き、普通河川の整備を実施し雨水排水からの災害を防止する。				

総合評価(二次評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ 完了
	・平成22年度事業評価において、限られた予算の中で効果を上げるには対象箇所の優先度を決め、それに基づき整備を行う必要があるとの指摘をしており、実施計画に従い計画的に実施していく必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	70,000	70,000	0	70,000	70,000
国庫支出金		0	0		
県支出金					
起債					
その他					
一般財源	70,000	70,000	0	70,000	70,000

予算要求の概要	普通河川の老朽化、断面不足に伴う整備
要求額増減理由	
事業実施の課題	

財務部査定の考え方	・要求どおり
市長査定の考え方	・財務部査定のとおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	74800	駐車場管理費		担当課	基盤整備部 維持課		内線	2322
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	3	「すみよき」のあるまちづくりをめざして	
	款	7	土木費		分野	3	道路・交通	
	項	2	道路橋りょう費		基本施策	1	便利で快適な道路環境を整備する	
	目	1	道路橋りょう総務費		施策	4	道路利用環境の向上	
実施計画事業	駐車場維持修・繕改修事業							
市長の約束								

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民や観光客等の利用者	受益者数	93,312 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	<ul style="list-style-type: none"> 市営駐車場の運営を指定管理者が代行して効率的な運営を行う 市営駐車場の機能維持 		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理者が業務を代行することに伴う指定管理料の支払い 市営駐車場の修繕工事の実施 		
前回の評価からの改善・改革のポイント	市営駐車場に関する運営を継続して実施する			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	① 箇所数	箇所	目標・実績				
			H21	H22	H23見込	H24計画	
算出根拠等			9	9	9	-	
算出根拠等			9	9	9	-	
算出根拠等			達成率(%)	#DIV/0!	100	100	-
成果面	②	箇所	目標・実績				
			H21	H22	H23見込	H24計画	
算出根拠等						-	
算出根拠等			達成率(%)			-	
成果指標	①	箇所	目標・実績				
			H21	H22	H23見込	H24計画	
算出根拠等						-	
算出根拠等			達成率(%)			-	
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H21	H22	H23	H24	
	歳出(千円)(A)		0	20,444	39,773	20,800	
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			20,444	39,773	20,800	
	一般財源						
コスト指標	指標名		H21	H22	H23見込	H24計画	
	①	受益者1件当たり(円)(A/B)		218	427	223	
		受益者 市民(4月1日現在)(B)	94,235	93,822	93,212	93,212	
	②						
算出根拠等							

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など	
	A(2)	B(1)			
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	B	実施計画事業に基づき実施している	
	B(1)	一部結びつく			
	C(0)	結びつかない			
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	A	特に高山祭をはじめとする観光シーズンには、観光客の駐車場利用が大変多い	
	B(1)	ある程度のニーズがある			
	C(0)	少ない、減少している			
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	観光シーズンはもちろん、普段、市街地においても、市内の渋滞緩和に効果があることから、市民全体に事業効果が及ぶと考えられる	
	B(1)	概ね市民全体におよぶ			
	C(0)	わずかな受益者に限定される			
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	指定管理による運営を行なっている	
	B(1)	概ね達成している (75%以上)			
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)			
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	市営駐車場がの運営にあたっては指定管理者に運営を委託し、効率的に業務を推進している	
	B(1)	概ね有効である			
	C(0)	見直しが必要である			
⑥ 事業実施における課題の解消・前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	指定管理者と適正かつ無駄のない運営を行なうことを目指して検討している	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	指定管理者へ業務を委託するとともに、コスト削減に向けた取り組みについて指導を行なう	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	市営駐車場を利用する観光客数は天候や社会情勢に左右されるため、受益者1件当たりのコストの比較が難しいが概ね適正である	
	B(1)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	市営駐車場を利用する観光客数は天候や社会情勢に左右されるため、成果に対するコストの比較が難しいが概ね適正である	
	B(2)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
合計			12.0 / 20.0	100点換算	60 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	<ul style="list-style-type: none"> 市街地の交通渋滞緩和のために継続して実施する 				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場案内の強化や大型バスの適切な誘導の検討などにより渋滞緩和を図る必要がある。 				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	39,773	40,422	649	33,772	33,772
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他	39,773	40,422	649	33,772	33,772
一般財源	0	0	0	0	0

予算要求の概要	<ul style="list-style-type: none"> かじ橋駐車場の指定管理料 かじ橋駐車場機械部品改修 かじ橋駐車場管制システム入替え 不動橋駐車場土地家屋借上料等
要求額増減理由	<ul style="list-style-type: none"> かじ橋駐車場管制システム入替え
事業実施の課題	

財務部査定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 積算内容を精査
市長査定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 財務部査定のとおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	96151	土木施設災害復旧事業費	担当課	基盤整備部 維持課	内線	2326
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	3 「すみよさ」のあるまちをめざして	
	款	12 災害復旧費		分野	8 防災	
	項	1 土木施設災害復旧費		基本施策	1 災害に強いまちをつくる	
	目	2 過年土木施設災害復旧費		施策		
実施計画事業						
市長の約束						
<ul style="list-style-type: none"> 市民の生活と生命・財産を守ります。 支所地域と市街地を結ぶ主要道路や都市計画道路の整備を進めます。 土石流等の自然災害に備える防災施設の施工を進め実践的な防災訓練を実施します。 						

1 事業の目的・概要(Plan)

誰を(対象)	地域住民及び市道通過車両	受益者数	— 人
目的	平成23年6月1日に発生した地すべり災害により、市道が埋塞したため、災害復旧事業により通行できるよう復旧工事を実施する。		
概要	事業の実施手法(手段) アンカー付吹付法砕工、吹付法砕工、植生基材吹付工、土工1式		
前回の評価からの改善・改革のポイント			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	算出根拠等		m	目標値 実績値			
			達成率(%)				-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	算出根拠等		目標値 実績値				
			達成率(%)				-
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額	
	歳出(千円)(A)				0	160,000	
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)			0	0	0	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)					106,720	
	一般財源		0	0	0	53,280	
	指標名		H21	H22	H23見込	H24計画	
コスト指標	① 受益者1件当たり(円)(A/B)					#DIV/0!	
	受益者(B)						
	② 算出根拠等						

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2) 結びつく	A	・市道は特に生活道路であり、日々の市民生活と自然災害から生命・財産を守ることや流通の上でも、整備の重要性は高い。
	B(1) 一部結びつく		
	C(0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2) 非常に多い、急増している	A	・生活道路であるため、市道の安全に関する町内からの利便性向上の要望は特に大きい。
	B(1) ある程度のニーズがある		
	C(0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2) 市民全体におよぶ	C	・通行は不特定多数であるが、特に日常の利用はわずかな周囲住民に限られる。
	B(1) 概ね市民全体におよぶ		
	C(0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2) 十分に達成している (100%以上)	B	・地すべりの解析には調査日数を要するが、計画どおりに進捗させている。
	B(1) 概ね達成している (75%以上)		
	C(0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2) 有効である	A	
	B(1) 概ね有効である		
	C(0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消・前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2) 課題はない・解消されている	B	
	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2) 課題はない・解消されている	B	復旧工法についてはコスト削減のため、比較検討を実施。
	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2) 適正である	評価対象外	
	B(1) 概ね適正である		
	C(0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4) 適正である	A	
	B(2) 概ね適正である		
	C(0) 改善が必要である		
合計	13.0 / 18.0	100点換算	72 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	平成24年度当初から平成25年度第一・四半期にかけ災害復旧工事を実施する。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	(担当課評価に同じ)				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	0	160,000	160,000	160,000	160,000
財源内訳					
国庫支出金	0	106,720	106,720	106,720	106,720
県支出金					
起債					
その他	0				
一般財源	0	53,280	53,280	53,280	53,280

予算要求の概要	地すべり災害復旧工事費
要求額増減理由	・災害復旧事業のため
事業実施の課題	

財務部査定の考え方	・要求どおり
市長査定の考え方	・財務部査定のとおり